

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカル・ケア・サービス 株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井		
所在地	静岡県袋井市堀越2丁目14-1		
自己評価作成日	平成22年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成22年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の自立支援に力を入れ、ご自身の意思が最大限尊重されるよう努めております。また、平屋建ての為、各ユニット間の交流がしやすい上、ご利用者様になるべく閉塞感を感じさせない作りとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体の変更によりホーム名も変え「愛の家グループホーム袋井」となって初の受審です。今回の受審はユニットごとで自己評価にも取り組まれました。法人のネットワークの仕組みを活かした新体制でのスタートも順調に推移し 職員・本人・家族共に落ち着いたホームの様子がうかがえました。公園に隣接する閑静な住宅地にある平屋でゆとりを感じられる住まいです。西と東に利用者が住まうユニットがあり広い廊下を歩き合いお互いの交流もなされています。外食・カラオケ等への外出支援も提供しやすい立地環境です。ご家族へ利用者の様子を伝える「福来老(ふくろう)通信」の紙面づくりにも工夫があり共に支える為に情報が発信されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念を理解・実践するために、朝礼時・会議時に全員で唱和している。	運営母体の変更に伴い地域密着型の意義を踏まえた3つの理念を施設内に掲示し、朝礼時には唱和し一日のスタートとしています。会議等でもこの理念を確認し、その人らしさを支える実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭など、地域行事に参加すると共に、日常的に散歩に出かけるなどして交流を図っている。	整備された住宅地の中にあるホームであり、外出を安心して楽しむ環境が整っています。町内会の一員として納涼祭にも参加していますが、近隣との付き合いはあります。	町内会に既に加わっているホームであり「隣組」としてお互いが親近感を持つきっかけにもなる「回覧板」のやり取りから始める事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じてホームの情報を発信しているが、まだ、活かすまでには至っていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者様・ご家族様・地域の方々と一緒にスライドを見てもらいながら活動の報告をさせて頂いているが、十分な意見交換には至っていない。	家族や近くに居住するオーナー、市担当者ゲスト(消防関係者)が参加の開催で報告・情報交換・防災の確認等の内容で行なわれています。比較的新しい住宅地の為近隣住民とのつながりが今後の課題です。	隣組・民生委員・包括支援センタースタッフ等 色々な方面の方々に運営推進会議に参加を呼びかけることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、ホームの実情やサービスの取り組みを伝えている。	市いきいき長寿課の職員が運営推進会議に毎回出席し 日常のホームの様子利用者の表情を伝え協力関係を気づいています。他のグループホームとの連携等の助言もあり取り組みを始めました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じて身体拘束についての理解を深めているが、玄関の施錠については今後の課題である。	豊唾の障害のある入所者が戸外に出してしまう経験から、今だ玄関の施錠をしている現状があります。会議においてセンサーやチャイムの設置等の工夫により開錠された玄関を目指す動きを確認しました。施錠以外の身体拘束はゼロでした。	玄関の開錠への取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底については、学ぶ機会がまだない為、今後、計画していきたい。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度等については、学ぶ機会がまだない為、今後、計画していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度、十分な時間をかけ説明し、納得が得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議内での意見交換やご家族様アンケートの結果等を反映している。	毎年1回本社が取りまとめる家族向けアンケートが実施され、結果を踏まえた取り組みを「3つの宣言」として玄関に表示し取り組んでいます。各家庭向けの「福来老通信」には生活・健康の様子をそれぞれに報告する欄が工夫されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時や職員アンケート実施など、意見を聞く機会を設けている。	管理者を中心に世代のバランスの取れた職員がそれぞれ会議において意見を検討し運営に反映され、働きやすい職場という声がありました。県内法人をまとめる統括リーダーの存在と、法人主催の研修も力となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、スタッフの評価や、勤務状況の改善等行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会があり、その他にも講和会・外部の研修等の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと互いに見学し合うなど、交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント用紙を使用しながら、必要に応じて何度も面接に伺い安心してサービスを受けられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居見学の時から、本人だけでなくご家族様の不安や要望等も確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間でも十分に話し合い、必要に応じて外部の事業所とも連携して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理・掃除等、日常の中で共有できる事を大切にしている。これらと一緒に行動することで、良い関係作りを築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一回のホーム通信を通じて、ご本人様の状況を伝えている。また、ご家族様と話す機会が少ないので、ご家族様の参加できる行事の機会を計画したい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、通いなれた病院等への通院を継続することで、なじみの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	家族招待の「誕生会」を催し、その模様を展示しゆっくりと振り返りができる喜びにつなげていました。馴染みの理美容への外出や楽しんできた趣味の継続も積極的に支援し、本人に勤めています。手作り年賀状の嬉しいやり取りができました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の散歩・体操・買い物などにより、ご入居者様同士が関わり、支えあえるに支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個々のケースに応じて、出来る限り関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で把握に努めているが、十分とはいえないため今後も変化を見逃さず把握に努めていきたい。	日常の中の会話や表情を捉えることに努めています。「気づきシート」(困っていること・支援できること)を記入・活用し 変化する本人への支援に向けて検討している取り組みを確認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取り、並びに御家族様を通して情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア日報・介護記録・申し送りノートの活用により、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録を通じて、現状を把握しながらサービス担当者会議にて意見やアイデアを収集している。しかしながら、サービス担当者会議へのご家族様の出席は今後の課題である。	モニタリング表を活用し、関係者を含めたチームで改善への支援の試みと検討を繰り返し作成しています。無気力な様子から変化し、意欲を引き出した支援等「個人」に目を向けた介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや、ケア日報・申し送りノートの活用を通じて情報共有をし、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて個別サービスを実施する事により、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園へ季節感を感じながら散歩に出掛けている。また、飲食店・カラオケも歩いて行ける距離にあり活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医との良好な関係の下ご家族様の協力を得ながら、通院介助等入居者様の健康管理に努めている。	月1回提携医の往診がありケアマネ兼務の看護師が同行して体調の把握をし 家族も含めた信頼の関係を構築しています。馴染みの病院への受診も対応しています。緊急時の市立病院との連携も可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面に関しては、看護師に相談し情報の共有をしながら適切な受診等につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その都度、医療関係者との相談に努めている。また、往診医との連携をとり、検査等も実施していて協力関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分とは言えず、今後の課題である。	現在は対象となる入居者が居られない為、現状の認知症の進行を止めることを目指し取り組んでいます。終末期のあり方についての研修や体制作りが必要不可欠な課題ととらえており 今後に向けての取り組みへの意欲を感じました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制に関してはマニュアルで、周知を図っているが、訓練については定期的に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との協力関係が築けていない為、今後築いていきたい。	防災訓練は職員・入居者全員で取り組んでいます。夜間連絡訓練も行ない職員の動きの確認や意識付けをはかっています。水、缶詰、味噌汁、パン等3日間を想定した備蓄を確認できました。	地域で行なわれる防災訓練に、利用者と共に参加することを通して地域の方々との防災時の関係作りが進むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を通じて意識を高めているが、まだ十分とは言えず、今後も継続して定期的に学ぶ機会を持ちたい。	「失礼の無い言葉掛けをする」の周知を図り、日常的に学ぶ場としています。本部が実施したアンケートの中に「言葉掛けの改善」の要望もあり、現在もフロア全体で取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から積極的なコミュニケーションを図り、本人の希望の把握・実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメント用紙を使用しながら、必要に応じて何度も面接に伺い安心してサービスを受けられるような関係作りに努めているが、まだまだ不十分なことも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んで頂いたり、髪を整えるのをお手伝いしたりと一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに関しては出来る限り個別に配慮している。また食事が楽しみなものとなるよう、メニューの紹介をしたり、一緒に準備や片付けを行っている。	本部栄養士が作成したメニューを厨房スタッフが調理し提供しています。食事の満足度は高評価を得ていました。メニューの希望の声は「誕生会」に取り入れ楽しみの支援となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用・確認・把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはご本人の状態に合わせて行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して状態の把握に努め、自立に向けた支援に努めている。	水分摂取・排泄チェック等の記録を通して利用者ごとの状態を把握し、排泄のサインをとらえトイレに誘導しています。日中はリハパンやパットを使い分け排泄の自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動等にて便秘予防・解消に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前の時間帯になっており、ひとり一人の希望には沿えていない。	週2回以上・午前の時間帯の入浴を基本として支援しています。広く清潔な浴槽があり、入浴剤・ゆず等で楽しみの工夫や 個人的に好まれる洗髪剤の持ち込みも可能です。	入浴時間をもう少し幅を持たせ柔軟な対応で入浴が出来る取り組みを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣に合わせて支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬の使用開始や切替え時も含め、症状の変化や確認に心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に出来る役割や楽しみなど、職員間でアイデアを出し合い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物などの外出の機会を持つように心掛けている。家族の参加については今後の課題である。	何よりも隣接の公園への散歩は季節や外気に触れる外出支援となっています。近くには大型寿司店・カラオケ店があり、地の利を活かした外出支援が行なわれ、皆さんの楽しみとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳で管理しており、希望に応じて使えるようにはなっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方に関しては手紙・電話等でやり取りができる様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や飾りなどで季節感や生活感を取り入れた空間作りをしている。	余裕のある設計で建設され、東西ユニットを繋ぐ広い廊下には写真など活動の様子の展示がされています。食堂には明るい日差しが入り 清潔な環境が整っています。居間には家庭の雰囲気のできが引かれ洗濯もたためる場となっていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを配置したりと、心地よく過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様との相談・協力により馴染みの物を極力もってきて頂き、居心地の良い居室になる様、工夫している。	各居室は明るく 家族の協力を得て、テレビやベット、使い慣れた棚、写真等、住み慣れた居住環境が創り出されていました。窓際には花ポットが置かれ、水やりをし育て楽しんでいきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に各ご利用者様が分かりやすいよう、扉に表札を工夫したり、廊下には全て手すりを付けている。		